

知事賞 最優秀賞 (国税庁長官賞)

「元会長」の黒い看板

福島大学附属中学校

二年 福原祥子

夏休みに、会津の祖父の家に遊びに行ってきた。祖父と祖母は二人でお店を経営している。多くの品物を扱っているそのお店で、祖母にお茶を入れてもらって、おしゃべりしながらお店番の手伝いをするのが、ちょっと楽しい。

お店の机の脇で、黒い漆塗りの細長い看板を見つけた。表には「優良青色申告…」という金色の文字が長々と並んでいた。祖母に尋ねようとしたら、「それはずっと前からそこに置いてあるの。意味は、『元会長』のおじいちゃんに聞いてちょうだい。」とサラリとかわされてしまった。「元会長」？

夕食の時、祖父にあの黒い看板のことを尋ねてみた。すると祖父は、「商売をしている人が、決められた帳簿をきちんとつけて、その年に納めなければならない税金の額を自分で

計算して税務署に報告す

る制度を『青色申告』と

言うんだ。『青』は、正直

に税金を申告するクリー

ンな精神を表すイメージ

カラーだよ。」と話してく

れた。祖父は、その青色申告をしている経営者の団体「アオシン会」の会長を長く務めていたそうだ。

「申告内容に間違いがあったり、税金を納めるのが遅れたりしたら、あの看板はもらえなかったな。」と、「元会長」はちょっと胸を張り、ビールを一口おいしそうに飲んだ。隣から祖母が、「まじめに商売を続けてきて、まじめに税金を納めてきた『ごほつび』ってことかしら。」とにつこり。あの黒い看板は、お店の経営者として、また、社会の一員として、長い間納税の義務をきちんと果たしてきた祖父と祖母の誇りの象徴なのだろう。

祖母は、「税金を納める時はお金のやりくりが大変だけれど、税金に助けてもらったこともあったのよ。おじいちゃんが心臓の手術を受けた時は、高額医療費の助成制度があって、

入院費の負担が少なくて助かったわ。」と続けた。じつと聞いていた母は、「小中学生の教科書が無料で配られるのも、福島市で小学生までの医療費が無料なもの、税金が使われているおかげなのよね。」と一言。会社員の父も、

「会社に勤めている人は、『源泉徴収』という制度で、毎月の給料から天引きで国や県や市に税金を納めているんだ。」と教えてくれた。

それまで、「納税」を身近に感じたことはあまりなかったけれど、みんながまじめに税金を納めているからこそ、社会の様々な機能がきちんと働いているのだと思う。税金を納めた人自身も確実にその恩恵を受けている、社会を支える大きな助け合いの仕組み。この税金の役割と制度をきちんと理解することが、安心して暮らせる秩序ある社会作りを進める大きな力になるのではないだろうか。

今日もまた、祖父と祖母は、あの黒い看板と一緒に元氣にお店番をしている。

